

巻頭特集

タレント。パツクン。(パトリック・ハーラン)

お笑いコンビ「パツクンマツクン」としてデビュー20年を超えた「パツクン」こと、パトリック・ハーランさん。
今や大学でも講座をもつなどスーパーマルチな活躍ぶりです。



【パツクン(パトリック・ハーラン)】

1970年、アメリカ合衆国・コロラド州生まれ。93年、ハーバード大学卒業、同年来日。97年、吉田真と「パツクンマツクン」を結成。「英語でしゃべらナイト」「爆笑オンエアバトル」などのテレビ番組で注目を集め、以来、芸人の枠を超え、司会やコメンテーターとしても多くのメディアで活躍している。2012年、池上彰氏の推薦で東京工業大学非常勤講師に就任、コミュニケーションや国際関係に関する講義を行っている。私生活では小学生2人の子どもを持つパパ。

落ち着きのない子どもだった僕を 上手に育ててくれた先生

2017年、子育てに関する初の著書『バックンの「伝え方・話し方」の教科書 世界に通じる子を育てる』を出版、最近も新刊を出版されたバックンさん。

超多忙なはずなのに、なぜ子育てに関われるのでしょうか？とたずねると、「マネージャーさんが時間をつくってくれるおかげ！ 本当にありがたいです」と、笑顔。2人の小学生のパパとして、まさに現在進行形の「バックン流子育て」について伺った。

ただいま子育て奮闘中！

今は親も子も忙しく、親子一緒の時間をつくるには努力が必要と思いますが、いかがでしょうか。

今、娘が10歳、息子が12歳です。週に2、3回は子どもたちと一緒に家で夕飯を食べられていますし、週末も一緒にいられます。「時間がある時は家にいる」を行動の基本にしています。

朝は週3回ほど車（カーシェアリング）で子どもたちを学校まで送って行きます。車中で3人一緒に過ごす30分がとても大事です。車の中は宿題の話や、勉強の復習をするにもいいんですよ。逃げ場がないですからね。

車中で僕が生まれる前のオールデイーズ、ドウワップ（※）を英語で歌い

ながら登校です。娘がアルト、まだ声変わりをしていない息子がソプラノ。3人でハモると楽しいですよ！ テンションを上げて学校へ送り出しています。

家族の食卓には、食前の儀式があるそうですね。

僕が家にいる時の夕食はだいたい6時半から7時くらい。テーブルセッティングは子どもたちの担当です。できない時は後片付けをやる決まりです。準備ができたらみんなで手をつないで感謝の言葉を述べます。そして、「Thank you」を述べてみます。そして、「I love you」を最後に「いただきます」を言って食べます。これはもう12年続くわが家の儀式です。子どもたちが親になった時にやってくれたらうれしいですね。

食後は宿題や翌日の準備をすべて終えたら、ご褒美に10分か20分、時間を決めて一緒に映画を見て、8時半には寝ます。

ベッドに本を持って行って、たまには僕が英語で読んであげることもあり



「夕食は週に1回くらい僕がつくります。昨日はハンバーグをつくりましたよ」

ます。子どもを早く寝かしつけたい時は、ニューヨーク・タイムズやウォール・ストリート・ジャーナルなど子どもには難しいものを英語で読み聞かせします。ただしこの時は、質問はいつさい禁止！ まだ難しい言葉が分からないから、すぐに寝てくれます。寝かしつけにオススメの技です！

新聞配達で母を助ける

ご自身は小さい頃にご両親が離婚、お母様は女手ひとつでバックンさんを育てられました。



僕は家計を助けるために10歳から高校生まで毎朝、新聞配達をしていました。その間にお母さんが朝食をつくって、配達から戻ったら一緒に食べて僕はスクールバスに乗る。お母さんは僕を学校に送り出してから仕事に回っていました。

お母さんは常に働いていましたから、僕と一緒にいられる時間は限られていましたが、できるだけ一緒にご飯を食べるようにしていましたし、日曜日の朝、教会に行く車の中では、一緒に過ごすのが決まりでした。

僕が高校3年の時、お母さんは41歳

で入学した大学院を首席で卒業、修士号を取得して小学校の先生になりました。ようやくわが家の家計が安定し、僕は大学入学とともに新聞配達をやめました。

僕を導いてくれた先生たち

印象に残っている先生の思い出をお聞かせいただけますか？

まず思い浮かぶのは幼稚園の時に教わったデイホフ先生です。先生は「学ぶことのおもしろさ」を最初に僕に教えてくれた人です。

子どもの頃、僕は活発過ぎるというか、いつも教室の中を走り回っているような落ち着きのない子どもでした。ある時、幼稚園でお芝居をやることになりました。その時、デイホフ先生は覚えなければいけないセリフがたくさんある主人公に僕を指名し

たのです。

先生は、僕の有り余るエネルギーを、興味をもてそうな方向に上手く向けて、集中して何かを覚えることの楽しさを教えてくれました。

その後、小学校時代で思い出深いのは、リード先生の指導です。当時の僕は、授業がつまらないと思うと、先生の話の聞かない子でした。

ある時、ぼんやり天井を見上げてみると、無数の穴が目に入りました。よく見ると天井板の四角の中に穴がきちんと整列しています。それで僕は「これは計算で数えることができる」と思い、数式を使って穴の数を出しました。

そして、おもむろに手を挙げ、「先生、この教室の天井に穴がいくつ開いているか知っていますか？」と質問したのです。すると先生は、「先生は知らないけれど、君は知っているのかい？」と僕に聞きました。もちろん、先生がまったく違う話をしている最中に、です。

普通ならその場で「授業をちゃんと聞きなさい！」と怒られますよね。

ところが、リード先生は「穴の数をどうやって計算したか発表しなさい」と言ってくれたのです。それで、黒板に計算式を書いて説明すると、「なるほど。君はそうやって答えにたどり着い

たんだね」と、僕の計算を認めてくれました。素晴らしい先生だったと思います。

「リアルの世界」に生きて欲しい

父親として、子どもたちにどんなことを望みますか。

楽しいこと、興味のあることを、熱心にやって欲しいですね。僕は子どもにとつての教養というのは、学業以外にもあると思っています。

もちろん宿題はやらなければいけません。その上で、習い事もやって欲しいし、友達とたくさん遊んで欲しい。公園遊びもして欲しいし、マンガも読んで欲しい。

子どもたちはマンガが大好き。放っておけば日本のマンガばかり読んでいます。日本のマンガはテーマから言葉遣いから、ほとんど大人向けと同じ。マンガは語彙力を増やすのに役立つと思っているので、許可しています。

でも、スマホやパソコン、テレビなどの「画面」はあまり見て欲しくないですね。僕の番組以外は。

デジタル端末の類は、ある程度時間



を制限して、できるだけ「リアルの世界」に生きて欲しいと思っています。

教育方針はどんなものでしょうか？

これまでの経験で僕自身が到達した正解というか、常日頃自分に言い聞かせていることを子どもたちにも言い聞かせています。

いろいろありますが、列挙してみるとこんな感じです。

- ・ リアルの世界に生きる
- ・ できるだけ幅広く興味をもつ
- ・ 一生懸命やる
- ・ 家族に感謝する
- ・ 恵まれていることを忘れない
- ・ 自信をもちつつ謙虚であること
- ・ 「どうせできない」と思い込まない
- ・ 可能性志向で生きる

子育てにも人生にも、複数の正解があると思っています。いつか子どもた

議論や発言を促す教育を

日本の教育に思うことは？

ちが、「パパとは違う生き方が見つかった」と言う日が来るかもしれない。それで幸せになればオッケーです。

でも、それまでは自分が知っている道を教えようと思っています。

日本は素晴らしい教育によって、社会を支える分厚い中間層をつくり出しています。先進国の中で日本ほど安定している国

はないと思います。治安が良く、道徳や倫理のレベルが高い。政治的な理念が違っても議論できるし、意見が食い違っても暴力に走ることはありません。

そういう日本の教育を担っている先生方のご苦労と功績をふまえた上で、述べさせていただくと、日本人の場合、議論の場で「君はどう思う？」と意見を求められる時に、しっかりと自分の意見を言える人はごく一部です。

これからは、というか、もうすでに

議論の場でしっかりと発言し、アイデアが出せるかどうかで評価されていく時代が来ています。

人を傷つけずに反対意見が言えるか。自己主張しながらも解決策が見つけられるか。みんなが思いつかないところに目を配れるか。見落とされているニーズを、見出すことができるか。

ビジネス、教育、政治など、あらゆるシーンで求められるスキルですね。

これは以前から僕があちこちで言っていることですが、学校での「私語禁止」は、なくしたほうがいいんじゃないでしょうか。

どんどんアイデアを出して、どんどん質問が出るように、発言する（しゃべる）機会を、もっと増やしたほうがいい。たとえそれが不正解でも、発言した生徒の思いを認めながら正解に導くような教育になつたらいいと思います。

僕は今、大学（東京工業大学）で講座をもっています。その中で、「ピストン議論」と僕が勝手に名づけたワークショップがあります。

まず全員を立たせます。そして、例えば「集団的自衛権の法案に賛成の

子どもたちが「伝わる英語」を話したら肯定してあげて

人は？」と聞いて手を挙げさせ、手を挙げた人以外を座らせます。これで賛成派と反対派のグループ分けが出来ます。

次に、立っている賛成派のグループの中から「賛成意見どうぞー」と聞いて手を挙げさせ、1人が意見を言います。発言したら、発言者のみ座ります。

次に「今の意見に対する反論です。反対派のグループ立って！」と僕が言つて、賛成派のグループと反対派のグループが入れ替わります。そして、立った反対派のグループの中から「反対意見どうぞー」と聞いて手を挙げさせ、1人が発言したら、発言者のみ座ります。

次に「その意見に対する反論どうぞ」と繰り返していきます。一度発言した人はその後ずっと座っていられるから、できるだけ早く意見を言ってしまうほうが得です。

立つ人の数が減りながら、「立つ・座る」がグループごとにピストンのように交互に繰り返されるのですね。

これは、発言と議論に慣れるトレーニングです。少なくとも高校生ぐらい

になったら、どんな議論の場面でも、抵抗なく自分の意見を言えるようになっておいたほうがいいと思います。

英語はスポーツ

小学校高学年で英語が教科化されます。そのことも含め、日本の英語教育について感じることをお聞かせいただけますか。

英語教育を小学校の早い段階で導入したことは賛成です。「母国語（日本語）が中途半端になってしま

のではないかと心配される方がいらつしゃいますが、それはあまり心配ないと思います。

2,3カ国語を話せる人は僕を含め山ほどいます。スウェーデン人、スイス人、ドイツ人、たくさんの知り合いがそ

うですが、だからといって母国語がおろそかになっているかといえば、そんなことはありません。

英語が教科になったからといって、日本語教育のレベルが落ちることはないと思いますし、日本語と同時に英語も覚えられるはずですよ。

工夫をすれば、今のカリキュラムの中でも削れる時間がどこにあると思います。その時間に、日本の小説をもっと読むようにしてはどうでしょうか。

小説を読むことは、脳のトレーニングにも人としてのトレーニングにも、とても大事だと思います。



11歳頃、家族の前でギター演奏を披露

「子どもたちと一緒に歌う曲はメロディがシンプルで
ブリがよいものを選びます」



わが家ではマンガを買う時には小説を必ず一緒に買って、「小説を読み終わったらマンガを読んていい」というルールにしています。

英語の指導法についてはどう思われますか？

英語の位置づけをはっきりさせたほうが良いと思います。音楽や美術のように英語を「興味がある人がやるもの」という位置づけとするなら、今のままが良いと思います。

でも、英語は世界の共通言語。すべての人が身につけるべき、必須の言語とするなら、今のやり方をもう少し

厳しくする必要があり
ると思います。

学校で週に1時間
勉強したからといっ
て、しゃべれるようには
なれないというのは
事実です。英語は
スポーツのようなもの
です。訓練するもの
です。日々練習する
しかありません。

先生には怒られる
かもしれませんが、
かもしれませんが、
「だいたい」できてい
れば、そんなに問題
はないんです。多少
間違っているけれど、
子どもたちが「伝
わる英語」を話した
ら、それを肯定しま
しょう。そんなに
難しく考えず、肩の
力を抜いて。

「オーケー、君の言
っていること、僕に
伝わったよ。ちよつ
と間違ったところは
は、次に直そう！ハ
イ、オーケー、次
！」
それぐらいの気分
で、どんどんやっ
ていったらいい思
います。プロ野球で
打率3割ならすごい
バッターです。とい
うことは、7割は失
敗です。5割でも英
語ができていなら、
認めよう！

英語は道具です。も
ちろん奥は深い
ですよ。でも、英
語を極める必要は
ないのでから。

**先生方はもった
欲張りになって！**

最後に、先生方へのメ
ッセージをお願いします。

そういうのつて、きれ
いことになりがち
です。ね。「日本の
将来を背負う宝
物を預かっている
のだから、ぜひ頑
張って欲しい」とか
。もちろん、僕も、
そう思っています！

でも、正直なところ、
先生方には、そう
いうきれいなこと
で満足しないで欲
しいのです。

僕の子どもたちが
お世話になった先
生たちはとても優
しい方々です。親
の悩みを聞いて、
真摯に対応してく
れました。日本の
先生方は間違いな
く、みんないい人
たちです。給料の
何倍もの仕事を
していると思います。

でも、いい人にな
りすぎないで欲
しいのです。環
境を良くするため
の要求を、もつ
ともつともつとも
つともつともつと
もつともつともつ
と多くを望んで
いいと思います。

良い先生になれる
ように指導能力
を伸ばす、良い人
材が先生になりた
くなるような学
校づくりや、教育
制度をもつと進
めて欲しい。そ
して、校長

先生や教育委員会は先生
方の権威と権利を守
って欲しい。日本の
教育がもつと良い
方向に進化するこ
とを信じています。

※ドウワップ (Doo-wop) ... ポピュラー音楽に
おける合唱のスタイルの一種。1950年
代半ばから60年代初頭のアメリカ合衆
国で隆盛し数多くのコーラス・グル
ープが生まれた。

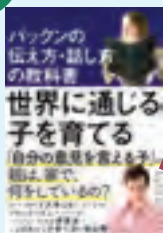
バックンさんのスマホには、お
子さんと一緒に歌っているとい
うオルディーの曲がたくさん入
っています。

なかでもイチ押しは「Mr. Lee (ミ
スターリー)」「ザボベツ」。

「トワンツースリー ルックア
ット ミスターリー」サビがの
繰り返しだけなので超カン
タン！ トワンツースリー
学校行こうぜ ミスターリー
スリー！ フォーファイブ
宿題やったか？ ミスタ
ーリー！ と、替え歌に
しても楽しいですよ
とバックンさん。

お子さんと一緒に、かん
たんに楽しくハ
マレそうです。ぜひ
トライしてみてください
ね！

読者プレゼント！



バックンさんのサイン入り書籍「バックンの
『伝え方・話し方』の教科書 世界に通じる
子を育てる」を3名様にプレゼントします。
応募の詳細は35ページをご覧ください。